

上回った。

また、5月の起債(純増ベース、国債、金融債を除く)は341億円と前月(293億円)を50億円近く上回る予定である。内訳では政保債が164億円(前月91億円)と平常月の水準にもどるほか、電力債(65億円、前月50億円)などは増加を示す見込みであるが、一般事業債は起債調整の本格的実施により78億円(前月117億円)と低水準にとどまり、内容もほとんど借換え債で占められることになる。新規長期国債の市中引受け額は400億円(前月1,400億円、前年同月500億円)、うち証券会社引受け分は、40億円(前月42億円、前年同月65億円)にとどめられることに決定された。

実体経済の動向

◇生産、出荷は大勢やや伸び悩み

生産は3月前月比横ばいのあと、4月の速報計数では同+1.3%と再び増加した。もっとも4月の増加は耐久消費財の反動増によるところが大きく総じて年初来の増勢鈍化基調に変わりはない。出荷は3月前月比+0.2%と伸び悩みのあと4月の速報計数では同+2.5%と大幅に増加したが、これにも特殊要因とみられるものが大きく影響しており、大勢としては年初来の傾向に変わりはないものと思われる。

製品在庫の増勢基調にも、大勢としてこのところとくに変化は生じていない。

一方設備投資の動向をみると、中小企業には減少傾向がうかがわれ、また大企業の設備投資態度も徐々に慎重さを増し、43年度計画を修正する動きなども散見されるが、こうした計画修正が現実の設備投資に影響するのはなおかなり先のことと考えられ、総じてみれば当面の設備投資は各種指標からみてやや鈍化を示しつつあるとしても、なおかなりの増加傾向にあるものと判断される。

また個人消費支出をみると、4月の百貨店売上高はやや伸び悩んだが、これには法人向け売上げの伸び悩みや、天候不順が多少とも影響しているとみられ、また個人向け売上げの大宗をなす衣料品、家庭用品が引き続き着実な伸びを示していることからみても、ここへきて消費の伸びが鈍ってきたかどうかは、にわかに判断できない。

(生産——大勢は増勢鈍化傾向)

3月の鉱工業生産(季節調整済み)は、2月+0.7%のあと前月比横ばいとなり、次いで4月は速報によると+1.3%と再び増勢を示したが、こうしたフレを3ヵ月移動平均でならしてみると、1月+0.4%、2月+0.1%、3月+0.7%と総じて落ち着いた動きをみせており、年初来鈍化傾向にあることは明らかと思われる。最近の月々の生産の伸

びはとくに耐久消費財生産のフレによって大きく左右されているが、これは耐久消費財生産の季節性が変化しつつあることによるものではないかと考えられ、反面、景気動向に敏感な資本財、生産財の生産にはここ数ヶ月を通じて伸び悩みが看取される。

最近の動きをやや詳しくみると、まず一般資本財は3月には通信機械、事務用機械、金属加工機械、繊維機械等が一部2月減少の反動もあって増加し、これらを中心に+3.6%と比較的高い伸びとなったが、4月の速報では再び微増にとどまった。この間標準電動機、標準変圧機等の量産機種が一貫して減少をたどっていることは注目されよう。

資本財輸送機械は、船舶が昨年11月以来連続して減少のほか、トラックも減少しており、とくに3月は-4.2%と不振であった。

建設資材は、3月には橋りょう、セメント、アルミサッシ等を中心に+3.8%とかなりの伸びを示したあと、4月の速報ではやや伸び悩んでいるが、このところ出荷の好調を反映して総じてかなり高い伸びが続いている。

耐久消費財は3月-2.7%と減少のあと4月の速報では+6.8%と大きく増加するなどフレがき

わめて大きい。夏物家庭電器の生産が季節性的変化もあって大きく変動しているためとみられるが、ここ数ヶ月を通観すればかなり高い伸びが続いているといえよう。

非耐久消費財は3月食料品、化学製品を中心に-1.7%と減少のあと4月の速報ではいくぶん増加した。

生産財は3月には鉄鋼、化学製品、機械部品等の減少のため、昨年2月以来1年1ヵ月ぶりの減少(-0.1%)となった。もともと、4月の速報では再びやや盛り返している。

(出荷—かなりのフレはあるものの大勢は落ち着き傾向)

鉱工業出荷(季節調整済み)は、2月微減(-0.6%)のあと3月+0.2%の微増、次いで4月の速報では+2.5%とかなりの増加を示した。

ただ4月の速報における出荷増は、耐久消費財、一般資本財、輸送機械の一部に2、3月伸び悩みの反動がみられたことや、たばこに5月からの値上げを控えたかけ込み需要がみられたことなど、特殊事情に左右された面が強く、大勢としては生産財、一般資本財を中心とした伸び率鈍化傾向に変わりはないものと思われる。ちなみに3ヵ月移動平均によってならしてみると、1月+0.8%、2月+1.0%、3月+0.7%と月率1%弱程度の増勢となっている。

内容をみると、まず一般資本財は、3月には通信機、発送配電機器、運搬機械、金属加工機の増加の反面、化学機械、ボイラー・原動機、建設機械等が減少したため微増(+0.3%)にとどまったが、4月は速報でみるかぎり総じて反動増を示す品目が多く、かなり大幅な増加を示した。

資本財輸送機械は船舶によって大きく左右され、3月は+10.1%の著増となったが、トラックは減少を示した。

建設資材は、好天と公共事業費支払進捗を映じ、セメント等を中心に3月は+2.8%の増加となり4月の速報でもかなりの伸びが続いている。

耐久消費財は生産同様フレが大きく、3月-9.2%のあと4月の速報では+15.0%の著増となって

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	42年				43年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月
鉱工業指数	131.4	138.2	145.4	147.7	148.1	148.1	—
前期(月)比	4.3	5.2	5.2	1.6	0.7	0	1.3
前年同期(月)比	19.0	19.5	19.1	17.2	19.1	15.9	18.7
投資財	6.3	6.1	6.9	2.7	0.4	2.4	-0.6
資本財	6.8	8.0	9.1	0.4	0	1.5	-1.2
同(輸送機械を除く)	9.0	7.8	8.3	3.8	1.0	3.6	0.5
輸送機械	2.3	8.6	8.9	-4.2	-1.6	-4.2	—
建設資材	5.0	2.1	2.0	8.2	1.7	3.8	1.1
消費財	3.6	5.3	6.1	-1.9	1.8	-2.6	5.1
耐久消費財	1.7	8.2	8.9	5.3	3.8	-2.7	6.8
非耐久消費財	3.2	3.8	4.5	-4.1	-0.1	-1.7	1.9
生産財	3.3	4.1	3.3	3.9	0.5	-0.1	0.9

(注) 通産省調べ、43年4月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	42年			43年	43年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月
鉱工業	130.2	137.3	140.8	146.3	145.9	146.2	—
前期(月)比	3.7	5.5	2.5	3.9	-0.6	0.2	2.5
前年同期(月)比	17.4	18.6	15.4	16.6	17.4	15.6	18.5
投資財	7.8	8.2	0.4	8.7	-3.7	3.7	-1.8
資本財	9.6	10.7	-0.2	8.3	-5.2	3.7	-3.4
同(輸送機械を除く)	7.6	7.6	8.0	3.9	2.6	0.3	4.8
輸送機械	12.7	16.0	-13.1	45.8	-15.9	10.1	—
建設資材	6.5	0.4	2.4	8.5	-0.3	2.8	3.7
消費財	1.1	5.7	3.3	0.6	-2.1	-2.8	11.4
耐久消費財	6.6	10.5	6.5	0.5	-1.4	-9.2	15.0
非耐久消費財	-1.3	4.6	2.1	-0.6	3.9	-1.6	7.8
生産財	3.5	3.1	3.4	3.0	-0.4	0.5	0.5

(注) 通産省調べ、43年4月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

いるが、これは主としてエアコンディショナー等夏物家庭電器の変動によるものである。

非耐久消費財も、3月-1.6%のあと4月の速報では大きく増加しているが、これは5月からの値上げを見越したたばこのかけ込み需要によるところが大きく、これを除けば3、4月を通じて落ち着いた動きと思われる。

生産財は3月+0.5%のあと4月の速報でも微増にとどまり、引き続き伸び悩みを示している。

(在庫—漸増きみ)

鉱工業製品在庫(季節調整済み)は、3月には前月比+3.0%と2月(+2.5%)に引き続きかなりの増加となったが、4月の速報では-0.4%と4か月ぶりの微減を示した。しかし、これにはたばこの値上げ見越しの出荷増が大きく響いており、こうした特殊要因を除けば、資本財中の量産機種、生産財を中心とした在庫の増勢に変わりはない。ちなみに、たばこを除いた4月の在庫は+0.3%程度と推定される。

特殊分類別みると、まず一般資本財は、3月には鋼索、銅電線等加工度の比較的低いものやトラクター、電動機等の量産機種を中心に+5.6%と大幅な増加を示したが、4月にはその反動もあ

って-3.1%と減少した。

資本財輸送機械はトラックが1、2月に引き続いて増加し、これを中心に3月は+7.0%と大幅に増加した。

建設資材は3月、製材、アルミサッシ、塩ビ製品を中心に+2.8%の増加を示し、次いで4月の速報でも+2.8%と増加が続いている。

耐久消費財は、3月+11.4%のあと、4月の速報でも、出荷の大幅増加にもかかわらず、+2.8%と増加した。扇風機、冷蔵庫、エアコンディショナー等が増加要因となっており、盛夏に備えての備蓄といった面もあるよううかがわれる。

非耐久消費財は、3月-0.6%と、食料等を中心に減少のあと、4月も速報ではたばこを中心に-5.8%と著減している。

生産財は、3月各種化学製品、非鉄地金、機械部品を中心に+2.0%と増加したあと、4月の速報でも引き続き増加している。この結果、昨年7月以来10か月にわたって増加が続いたことになる。

3月の製品在庫率は、上記のような在庫、出荷の動向を反映して前月比+2.8%と引き続き上昇し(在庫率指数は90.8)、ボトムを記録した昨年7

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減率・%)

	42年			43年	43年		
	6月	9月	12月	3月	2月	3月	4月
鉱工業	111.2	115.9	124.2	132.7	128.9	132.7	—
前期(月)末比	2.2	4.2	7.2	6.8	2.5	3.0	-0.4
前年同期(月)末比	6.5	9.7	18.0	22.0	20.9	22.0	19.2
製品在庫率	83.0	83.0	87.6	90.8	88.3	90.8	—
投資財	4.9	7.2	2.7	6.7	0.9	4.6	-2.5
資本財	1.2	6.5	7.2	11.9	3.0	6.3	-6.1
同(輸送機械を除く)	0.5	7.1	6.9	4.5	-2.1	5.6	-3.1
輸送機械	3.8	-1.4	14.8	45.8	25.5	7.0	—
建設資材	6.4	6.8	-2.8	4.6	-1.6	2.8	2.8
消費財	1.4	2.2	10.1	7.4	3.6	4.8	-0.5
耐久消費財	2.7	0.2	9.2	18.7	7.5	11.4	2.8
非耐久消費財	1.6	4.9	9.9	-0.5	0.5	-0.6	-5.8
生産財	2.4	4.5	6.1	6.2	1.7	2.0	0.9

(注) 通産省調べ、43年4月は速報。
前年同期(月)末比は原指数による。

月に比べてすでに10.7%の上昇となっている。

2月の販売業者在庫(季節調整済み、速報)は、12月、1月と減少のあと、+1.8%の増加となった。42年春以降の推移をみると、42年4～6月前期末比+11.8%、7～9月+11.4%と著増したあと、10～12月+2.3%、1～2月-0.4%と増勢を鈍化させている。2月の動きを財別にみると、輸入素原材料は綿花、銅くず等を中心に反動増(+3.8%)を示し、製品も織物、石油の減少にもかかわらず、自動車の反動増、鋼材の荷もたれから+1.9%の増加を示した。

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	42年			43年		
	9月	12月	3月	1月	2月	3月
在庫指数	127.9	130.0	133.2	131.6	130.5	133.2
前期(月)末比	2.2	1.6	2.5	1.2	-0.8	2.1
国産分	3.8	0.3	3.5	0.9	-0.2	2.8
素原材料	5.4	1.0	8.2	0.1	0.6	7.5
製品原材料	3.7	0.4	1.0	0.9	-1.1	1.2
輸入分	-3.3	6.0	-0.6	0.6	-1.3	0.3
素原材料	-3.2	6.1	-1.2	-0.1	-0.7	-0.4
在庫率指数	88.9	90.0	88.8	89.0	88.1	88.8
国産分	88.2	88.4	89.0	87.3	86.9	89.0
素原材料	94.5	100.8	106.8	100.2	99.4	106.8
製品原材料	88.1	87.6	86.0	86.3	85.3	86.0
輸入分	92.3	94.8	89.6	92.3	91.9	89.6
素原材料	94.2	97.2	91.0	94.1	94.1	91.0

(注) 通産省調べ、43年3月は暫定。

販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	42年			42年	43年	
	6月	9月	12月	12月	1月	2月
総合指数	238.7	265.8	271.8	271.8	266.5	271.4
前期(月)末比	11.8	11.4	2.3	-0.5	-1.9	1.8
素原材料	15.0	-3.2	3.0	-4.2	-7.6	4.2
製品	11.2	13.8	1.6	-0.4	-0.9	1.9

(注) 通産省調べ、43年2月は暫定。

(設備投資——機械受注は1～3月伸び悩みのあと4月は著増)

設備投資動向と関連の深い一般資本財出荷の動

きをみると、1～4月の月平均水準(ただし4月は速報計数)は10～12月の平均水準に比べて5.5%の増加と、昨年末までの大幅な伸び(7～9月前期比+7.6%、10～12月同+8.0%)に比べて増勢をやや鈍化させている。もとより一般資本財の出荷はかなり大きなフレを示すうえ、流通段階の在庫変動の影響も勘案しなければならないので、これがそのまま設備投資の実勢を表わすとはいえないが、設備投資の増勢にこのところいくぶん変化が現われてきたのではないかとみられる。

一方、設備投資の先行指標である機械受注(海運を除く民需、季節調整済み)は、1～3月に前期比大幅な落込みをみせたあと、4月は前月比+38.5%と著増した。このように4月になって著増を示したのは、①先行きの受注減少を予想して、メーカーが旧年度受注分の相当量を4月に繰り越して計上したとみられること、②4月にはいつて電力業界からの受注が集中した模様であること、などの事情が響いているようであり、ここに来て受注の実勢が大幅に強まったとはみられない。ただ、3月末実施の機械受注見通し調査でも、船舶を除く民需は季節調整後で前期比+23.5%の増加を示すものと予想されており、これらから推しても、企業の設備投資意欲は依然根強さを失っていないものと思われる。

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	42年		43年	43年		
	7～9月	10～12月	1～3月	2月	3月	4月
民需	1,353	1,550	1,277	1,257	1,134	1,660
	(1.0)	(14.5)	(-17.6)	(-12.7)	(- 9.8)	(45.9)
同/海運を 除く)	1,212	1,447	1,170	1,121	1,039	1,473
	(- 6.7)	(19.3)	(-19.1)	(-17.0)	(- 7.4)	(38.5)
製造業	756	917	678	695	711	872
	(- 3.9)	(21.2)	(-26.1)	(10.7)	(2.3)	(-24.8)
非製造業	600	621	611	556	439	780
	(5.8)	(3.7)	(- 1.7)	(-33.6)	(-21.1)	(71.7)
同/海運を 除く)	452	532	508	419	348	589
	(-13.0)	(17.5)	(- 4.4)	(-44.6)	(-17.1)	(56.8)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

◇鉄鋼など一部商品に底値感

最近の商品市況をみると、鉛、亜鉛、木材、化学、紙、砂糖等が引き続き軟調を示すなかで、鉄鋼が鋼板類を中心に値上がりし、繊維でも綿糸が4月後半に大幅下落をみせたあと反発し、また銅にも底値感が台頭するなど、主力商品はここに来て持直し商状を示している。こうした動きは、①輸出の好調に基づく荷もたれ感の軽減(主として鉄鋼、なお、人絹糸、そ毛糸では成約が好調)、②生産調整による供給圧力の低下(鉄鋼)のほか、目先在庫調整一服を示す商品もあって、需給バランスがやや改善してきていることによるとみられる。しかし国内実需は、大方の商品について低調に推移しており、反発や下げ一服をみせた商品の中にも単なる人氣的な値動きとみられるものもあるので、商況の大勢として底値が固まる段階といえるかどうかは疑問と思われる。

品目別の動きをみると、まず鉄鋼では、鋼板類が小幅ながら値上がりしたほか、条鋼類も強含み

になるなどしっかり商状をみせた。これは、輸出の好調と末端流通段階の在庫調整一巡に伴う補充買いに、ホット・コイルの減産(5月から1～3月比1割減産)を中心とするメーカーの市況対策強化も加わって需給関係が改善してきたことによるものである。もっとも、国内実需筋からの引合いが依然頭打ち傾向にあるだけに反発相場がどこまで続くか疑問視する向きも少なくない。次に繊維では、綿糸、スフ糸が反発し、人絹糸、そ毛糸もジリ高をたどった。主力の綿糸の反発は、前月後半の下げ過ぎ訂正によるものとみられている。また、人絹糸、そ毛糸等については、輸出成約の好調が好感されているものの、内需は盛り上がり欠け、糸市販はメーカーの思わくどおり進んでいない。非鉄は、商内凡調で全般に値下がりした。とくに銅の売れ行きは不振で山元在庫は増加傾向にある。もっとも、これまでの急速な値下がりによって、相場水準がすでに相当低く、輸入コストに比べ割安となっていることもあって底値感

卸売物価指数の推移

(単位・%)

	ウ エ イト	上昇期 (ボトム 40/7) 40/7 →43/2	下降期 (ピーク 43/2) 43/2 →43/4	最 近 の 推 移							
				43 年			43 年 4 月			43年 5月	
				2 月	3 月	4 月	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	
総 平 均	100.0	+ 6.1	- 0.9	+ 0.2	- 0.1	- 0.8	- 0.2	- 0.1	- 0.4	+ 0.2	
食 料 品	15.7	+ 9.7	- 1.1	+ 0.1	- 0.5	- 0.6	- 0.1	保 合	+ 0.2	+ 2.5	
繊 維 品	10.7	+ 11.4	- 1.9	+ 0.6	- 0.7	- 1.2	- 0.1	- 0.1	- 0.5	- 0.1	
鉄 鋼	9.7	- 0.9	- 2.7	- 0.5	- 1.2	- 1.5	- 0.6	- 0.4	- 0.2	- 0.1	
非 鉄 金 属	4.4	+ 19.3	- 3.7	+ 3.0	+ 3.2	- 6.7	- 2.2	- 1.9	- 4.3	- 3.7	
金 属 製 品	3.8	+ 4.6	- 0.2	保 合	+ 0.1	- 0.3	- 0.1	- 0.2	保 合	- 0.2	
機 械 器 具	22.1	+ 1.1	+ 0.1	保 合	+ 0.1	保 合	保 合	保 合	+ 0.1	+ 0.1	
石 油 ・ 石 炭	5.6	0.0	- 1.1	- 0.2	- 1.0	- 0.1	+ 0.2	+ 0.1	- 0.6	+ 0.1	
木 材 ・ 同 製 品	6.2	+ 29.7	+ 0.2	+ 0.3	+ 0.4	- 0.2	+ 0.2	- 0.1	- 0.5	- 0.3	
窯 業 製 品	3.0	+ 7.1	+ 0.4	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.2	+ 0.1	保 合	保 合	保 合	
化 学 品	7.6	- 5.1	- 0.4	- 0.3	- 0.1	- 0.3	- 0.3	+ 0.1	- 0.1	- 0.1	
紙 ・ パ ル プ	3.4	+ 2.5	- 0.3	- 0.1	- 0.2	- 0.1	保 合	- 0.1	- 0.1	保 合	
雑 品 目	7.9	+ 6.3	- 0.1	保 合	+ 0.2	- 0.3	- 0.1	- 0.1	- 0.1	保 合	
工 業 製 品	82.0	+ 3.8	- 0.6	+ 0.1	保 合	- 0.6	- 0.2	- 0.1	- 0.3	+ 0.3	
うち 大 企 業 性	59.6	+ 1.3	- 0.6	保 合	保 合	- 0.6					
中 小 企 業 性	21.0	+ 11.0	- 0.5	+ 0.4	- 0.1	- 0.4					
非 工 業 製 品	18.0	+ 16.4	- 1.7	+ 0.3	- 0.4	- 1.3	- 0.1	- 0.2	- 0.8	保 合	

(注) 本行調べ。

が台頭している。

次に石油では、灯油が不需求期入りから弱含みを続け、C重油も電力向け出荷が伸び悩み傾向にあるうえ先行きの増産見込みもあって、メーカーの大口ユーザーに対する4～6月物値決め交渉は、メーカー側にとって不利な情勢にある。他方建設資材では、セメントが順調な出荷にささえられて強含みを続けている反面、木材は軟調となった。これはこのところ割安な輸入材が大量に入着しているうえ、問屋筋が関連業界の倒産増加傾向をながめて慎重な仕ぶりをみせているためである。化学製品では、供給圧力の増大と実需の頭打ちからメタノール、ホルマリン、ポリスチレン、カーバイド等が値下がりした。紙では、一部に中元関係需要のはしりが散見されるが、総じて荷動きが鈍く弱含み、砂糖もメーカーの自主減産の足並みが乱れぎみで値下がりした。

(卸売物価——大幅に下落)

4月の卸売物価は、前月比-0.8%と大幅に下落し、月間指数は、104.7と昨年10月の水準(104.9)を下回った。当月の大幅下落は、銅系非鉄の海外安を映じた大幅値下がり(下落寄与率43.2%)によるところが大きい。このほか鉄鋼(鋼材)、繊維(原糸、織物)も続落し、またこれまで比較的堅調を続けてきた木材(製材)、金属製品(ボルト・ナット等)も久方ぶりに反落した。特殊分類では、工業製品が前月比-0.6%、非工業製品が同-1.3%の低下を示した。

もつとも、5月にはいって、上旬は、酒、たばこの値上げにささえられて0.2%反騰し、中旬も、繊維、鉄鋼の反発から横ばいを維持した。

(消費者物価——続騰)

4月の消費者物価(東京)は、前月比+0.2%と小幅な上昇となった。これは、季節商品を中心に食料が大幅に値下がりし、光熱費(灯油、れん炭)も微落したためで、被服費(衣料、仕立代)、雑費(授業料、国鉄運賃)は高騰、住居費(大工手間賃)も微騰し、季節商品を除く総合では前月比+0.7%とかなり上昇した。

消費者・小売・輸出入物価の推移

(単位・%)

	ウエ イト	前年度比 上昇率		最近の推移			最近 の年 月 前 同 比		
		41年度 平均	42年度 平均	43年					
				2月	3月	4月			
消 費 者 物 価	東 京	総合 (季節商品 を除く)	100.0	+4.7	+4.1	+0.4	+0.4	+0.2	+5.1
		91.4	+4.9	+3.9	+0.1	+0.3	+0.7	+5.7	
	京 都	食料	40.9	+3.0	+5.7	+1.2	+0.4	-1.5	+6.8
		住居	10.7	+5.7	+3.7	保合	+0.3	+0.3	+2.2
		光熱	4.5	0.0	+0.1	保合	-0.2	-0.2	+0.9
		被服	13.0	+3.6	+3.0	-0.4	+0.5	+1.1	+4.3
		雑費	31.0	+7.9	+3.4	保合	+0.1	+2.1	+4.8
	全 国	総合 (季節商品 を除く)	100.0	+4.7	+4.2	+0.4	+0.2		+5.3
		91.4	+4.7	+3.9	保合	+0.3		+5.3	
	全 都 市 以 上	総合 (季節商品 を除く)	100.0	+4.6	+4.1	+0.5	+0.1		+5.2
91.3		+4.6	+3.9	保合	+0.2		+5.1		
小 売 物 価 (東 京)	総平均 (生鮮食品 を除く)	100.0	+2.5	+3.3	+0.6	+0.2	-0.2	+3.6	
	94.3	+2.0	+3.1	+0.4	+0.3	-0.2	+4.0		
輸 入 物 価 (契 約 ベ ー ス)	輸 出		+0.6	+0.2	+0.2	+0.1	-0.1	+0.7	
	輸 入		+1.4	-0.4	+0.5	-0.6	-1.4	+1.8	
	交易条件		-0.8	+0.7	-0.3	+0.7	+1.2	-1.0	

(注) 消費者物価は総理府調べ、小売物価、輸出入物価は本行調べ。

(輸出物価——久方ぶりに下落)

4月の輸出物価は、前月比-0.1%と1年ぶりに下落した。これは、国内市況の軟化を映じて金属・同製品(鉄鋼、銅系2次製品)、繊維(綿・スフ織物、合繊)が軟化し、食料品(かん詰め)も続落したためである。他方、輸入物価も、前月比-1.4%と大幅に下落した。これは金属(銅・地金、くず鉄)、食料(小麦、とうもろこし、こうりゃん、粗糖)、繊維(原綿、原毛)等が軒並み下落したことによるものである。この結果、交易条件指数は、99.3と前月比+1.2ポイント上昇した。

◇国際収支の改善傾向続く

4月の国際収支は、貿易収支の黒字が季節的事情から前月を下回ったものの、資本収支や移転収支の赤字もかなり減少したため、総合で12百万ドルの小幅赤字にとどまった。貿易収支(季節調整後)の動きをみると、輸出が好調を維持している一方、輸入は大勢横ばいで推移しているため、収

国際収支

(単位・百万ドル)

	42年		43年	43年			前年
	7~9月計	10~12月計	1~3月計	2月	3月	4月	4月
経常収支	137	19△	298	△49	23	27	8
貿易収支	450	386	120	80	184	144	119
輸出	2,673	2,836	2,569	889	1,035	986	843
輸入	2,223	2,450	2,449	809	851	842	724
貿易外収支	△286	△328	△357	△122	△118	△103	△96
移転収支	△27	△39	△61	△7	△43	△14	△15
長期資本収支	△223	△224	△97	14△	57△	28△	△70
基礎的収支	△86	△205	△395	△35	△34	1△	△62
	(△278)	(△451)	(△101)	(△10)	(△63)	(40)	(△46)
短期資本収支	77	113	104	75△	4△	16	37
誤差脱漏	25△	5	44	29	4	5△	57
総合収支	16△	97△	247	69△	34△	12△	82
金融勘定	16△	97△	247	69△	34△	12△	82
外貨準備増減	△52	△17	△42	26△	35△	69	15
その他	68△	80△	205	43	1	57△	97

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。
 2. 短期資本収支には金融勘定に属するものを含まない。
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸出入指標の推移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支			通関		信用状		輸出	輸入
	輸出	輸入	貿易 じり	輸出	輸入	輸出	輸入	認証	承認
42年									
4~6月	840	739	101	858	942	678	379	877	958
7~9月	863	777	86	887	989	695	382	908	972
10~12月	872	826	46	887	1,065	732	377	931	1,078
43年									
1~3月	945	807	138	960	1,025	780	374	1,014	903
42年12月	875	856	19	880	1,106	716	379	946	859
43年1月	962	808	154	990	1,041	774	393	1,018	779
2月	904	799	105	917	1,006	769	396	1,009	986
3月	972	815	155	973	1,027	795	333	1,016	944
4月	985	800	185	1,007	1,014	818	383	1,045	880

(注) 季節調整はセンサス局法による。四半期別計数は月平均。

支じりは185百万ドルの受超(前月同155百万ドル)と引き続き黒字幅を拡大した。貿易外収支は利子支払が季節的に減少を示したことなどから赤字幅を縮小した(103百万ドル、前月は118百万ドル)。一方、資本収支では、長期資本は、輸出延払信用の供与が多少減少したのに加え、外資の流入がい

ンパクト・ローンなどを中心に引き続き高水準となったため、小幅の赤字(28百万ドル)にとどまった。また、短期資本は、食糧輸入の減少からBCユーザンスの利用が減少した(食糧の輸入金融はBCユーザンスによることが多い)ことを主因にわずかながら流出超となった。

次に金融勘定の動きをみると、為替銀行の対外ポジションは輸出の好調を映じた保有輸出手形の増加や借入れ、ユーロ・ダラーなどの若干の減少から大幅に好転し、これに伴って外貨準備は69百万ドル減少した。

4月の輸出は前年同月に比べて+17.0%、季節調整後の前月比でも+1.5%と順調な伸長を示した。商品別の動向(通関ベース)をみると、綿、スフ、人絹織物が依然低調であり、船舶も当月はやや不振であったが、その他は鉄鋼、自動車等を中心に概して好調であった。また仕向先別には、米国向けの増加が目だった(前年同月比+33.6%)ほか、東南アジア向けも韓国、台湾向けを中心にかなりの伸び(同+17.0%)を示した。米国向けの著伸は米国景気の急上昇に伴い同国の輸入が大幅に増加していることによる面が大きく、自動車、テープ・レコーダー、テレビをはじめ、陶磁器、はき物、玩具、合板等軽工業品の多くに至るまで順調に増加している。とくに、鉄鋼については同国におけるストライキ見越しの備蓄の影響も加わって増勢が強まっている。

先行指標である輸出信用状は、前年同月比+27.0%と高い伸びを示した。こうした先行指標の動きなどからみて輸出は当面かなり順調な足どりを続けるものと予想される。ただ、現在の輸出好調が米国向けの著伸によって大きくかさえられている点(4月の輸出信用状の前年比増加額のうち67%は米国向けの増加)には注意を要しよう。

一方、輸入は前年同月比で+16.3%、季節調整後では前月比-1.8%と落ち着いた傾向を続けた。品目別の動き(通関ベース)をみると、石油、石炭、木材等一部の原燃料や機械は依然根強い増勢を示しているが、羊毛、くず鉄、銑鉄、食料品等

が低水準で推移しており、また非鉄地金も2月ごろから逐月減少してきている。

先行指標の輸入承認も前年同月比で+5.0%(前月は同+4.1%)と引き続き小幅の増加にとどまった。商品別には通関ベースとほぼ同様の動きを示している(機械が前年同月を13%下回っているが、これは前年同月の水準が原子力発電機輸入によりとくに高かったため)。

通関輸出の内訳

(単位・百万ドル)

	42年		43年		43年		
	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月	
	食料品	103 (+4)	108 (-8)	104 (+24)	44 (+50)	32 (+8)	28 (+19)
魚介類	70 (+1)	69 (-18)	71 (+27)	32 (+63)	20 (+3)	17 (+12)	
繊維製品	424 (-7)	484 (-7)	367 (+1)	138 (0)	152 (+5)	151 (+9)	
綿織物	59 (-17)	69 (-22)	44 (-21)	17 (-22)	19 (-13)	18 (-19)	
合繊織物	72 (+1)	100 (+9)	69 (+6)	27 (+4)	28 (+6)	28 (+9)	
化学製品	179 (+8)	173 (-6)	149 (-3)	52 (+1)	60 (-3)	65 (+12)	
非金属 鉱物製品	74 (+1)	78 (+6)	70 (0)	25 (+3)	28 (-4)	28 (+11)	
金属製品	459 (0)	498 (+4)	483 (+22)	162 (+20)	193 (+23)	180 (+32)	
鉄鋼	329 (-1)	351 (+3)	352 (+2)	115 (+17)	140 (+22)	134 (+37)	
機械機器 (船舶を除く)	1,151 (+20)	1,228 (+9)	1,162 (+20)	382 (+13)	471 (+25)	437 (+16)	
テレビ	877 (+19)	962 (+8)	886 (+20)	308 (+21)	363 (+24)	351 (+28)	
ラジオ	48 (+10)	46 (-10)	39 (+3)	15 (+4)	15 (-6)	15 (+55)	
自動車	92 (+20)	97 (+9)	73 (+12)	26 (+15)	30 (+11)	28 (+8)	
船舶	94 (+33)	129 (+40)	138 (+47)	48 (+45)	56 (+68)	58 (+53)	
船舶	274 (+25)	265 (+9)	277 (+18)	74 (-13)	108 (+30)	86 (-16)	
光学機器	82 (+17)	85 (+5)	73 (+6)	25 (+10)	31 (+12)	29 (+20)	
その他	338 (+9)	322 (+1)	273 (+15)	99 (+18)	111 (+16)	114 (+14)	
合計	2,729 (+8)	2,890 (+3)	2,613 (+15)	903 (+13)	1,049 (+17)	1,006 (+17)	

(注) カッコ内は対前年同期(月)比増減率(%)。2~4月分の内訳は速報計数。

なお、3月の輸入素原材料在庫率は目だって低下した。これは主として輸入素原材料消費が不規則なフレもあって大幅に増加したため、総体として在庫不足の状態にあるとはみられないが、生産ないし素原材料消費の増勢に大きな変化がないかぎり、さらに大幅な在庫圧縮(在庫率の引下げ)を行ないうる余地もないようにかがわれる。

通関輸入の内訳

(単位・百万ドル)

	42年		43年		43年		
	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月	
	食料品	412 (+2)	454 (+7)	461 (+2)	160 (+2)	161 (+5)	153 (+3)
小麦	79 (-9)	72 (+4)	74 (+16)	30 (+52)	22 (+40)	23 (-14)	
とうもろこし	50 (-5)	58 (0)	58 (+2)	17 (-7)	23 (+15)	20 (+29)	
砂糖	26 (+13)	28 (+15)	45 (+25)	15 (+25)	19 (+18)	18 (+58)	
原燃料	1,645 (+18)	1,805 (+19)	1,787 (+13)	587 (+15)	620 (+9)	633 (+16)	
羊毛	90 (-15)	78 (-18)	82 (-15)	26 (-21)	31 (-4)	29 (-8)	
綿花	91 (+18)	88 (-17)	127 (0)	44 (+6)	53 (+11)	52 (+19)	
鉄鉱石	181 (+20)	180 (+11)	186 (+11)	58 (+16)	66 (+7)	74 (+16)	
鉄鋼くず	97 (+168)	72 (+33)	39 (-33)	14 (-29)	12 (-35)	12 (-53)	
大豆	61 (-9)	72 (+4)	69 (-12)	28 (+14)	20 (-16)	25 (+33)	
木材	251 (+35)	256 (+39)	249 (+26)	86 (+34)	86 (+21)	103 (+61)	
石炭	98 (+21)	108 (+30)	122 (+31)	40 (+42)	45 (+19)	42 (+34)	
原油	332 (+20)	438 (+29)	416 (+22)	136 (+23)	140 (+18)	137 (+18)	
化学製品	153 (+26)	166 (+22)	164 (+16)	54 (+22)	57 (+14)	54 (+17)	
機械機器	245 (+30)	286 (+31)	331 (+36)	112 (+39)	117 (+37)	106 (+21)	
鉄鋼	92 (+211)	107 (+110)	64 (-12)	25 (+4)	16 (-37)	19 (-39)	
非鉄金属	145 (+66)	169 (+62)	159 (+25)	50 (+10)	49 (+6)	41 (-1)	
その他	137 (+26)	144 (+40)	144 (+41)	50 (+47)	48 (+40)	46 (+31)	
合計	2,829 (+21)	3,130 (+23)	3,120 (+15)	1,041 (+16)	1,072 (+12)	1,057 (+13)	

(注) カッコ内は対前年同期(月)比増減率(%)。2~4月分の内訳は速報計数。